

平成30年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

地元企業と連携した養液栽培の研究活動により、販売額を大幅に増加

○氏名又は名称 JA豊橋トマト部会（代表 大竹 浩史）

○所在地 愛知県豊橋市

○出品財 経営（トマト）

○受賞理由

・地域の概要

豊橋市は愛知県の東南部に位置し、温暖な気候に恵まれ、砂質土壌で覆われた排水性のよい沖積平野と粘性が高く保水性のよい洪積台地で形成されており、多様な農畜産物が生産される全国有数の農業地帯である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

豊橋市では平成10年頃までトマトとメロンなどの高級果実を組み合わせた生産が行われていたが、高級果実の価格低迷が続いたことから、当部会は、産地の生産基盤維持を図るため、土壌病害の回避等により収益性が向上できるトマトの養液栽培に着目。平成15年に養液栽培研究会を結成するなどして養液栽培の普及と技術改良に取り組んだ結果、現在の導入割合は6割を超え、非常に高い水準となっている。

当部会の会員戸数は149戸、トマトの生産量は7,603t（県内シェア38%）で、養液栽培の導入以降、部会の販売額は大幅に増加している。

・受賞者の特色

（1）研究会活動を通じた生産性向上の取組

部会員81戸が参加する養液栽培研究会では、地元企業と連携して養液栽培に関する技術開発を行うとともに、開発した技術を部会内に共有して普及を図ることで、部会全体での生産性向上に取り組んでいる。

（具体的な取組内容）

- ① 導入コストが低減可能なヤシ殻を利用した培地や、ハウス内の炭酸ガス濃度や湿度等の最適化により収量が増加する環境制御装置を共同開発。
- ② 養液栽培システムの導入に当たり、部会員が協力して自己施工を行うことで設置コストの低減を図るとともに、新規導入者に管理方法等の技術を伝達。

（2）ブランド化等の販売拡大の取組

市場調査により消費者・実需者のニーズを的確に把握して、糖度等が異なる4種類のトマトのブランド化、ニッチ市場向けの加熱用トマト品種の栽培等に取り組み、安定的な販路・収入の確保を実現している。

・普及性と今後の発展方向

地元企業と連携した研究活動によって先進技術を開発・導入して生産性を向上させた取組は、他産地の模範となるものである。また、開発された技術は、愛知県が推進する「あいち型植物工場」にも取り入れられ、県下全域で普及している。

今後は、研究活動を継続してより一層の生産性向上に取り組み、トマトの一大供給産地として、更なる発展を目指す。